

第38回県大会 (宇城大会) 報告

(4) 研究発表

基礎・基本の定着を図り、生きて働く力を育む社会科学習の創造
～生徒や地域の実態に応じた発問や教材の研究を通して～



五和町立五和西中学校 教諭 佐伯 綱義

1 研究主題について

(1)はじめに

現在、価値観の多様化、国際化、高度情報化及び少子高齢化など社会が激しく揺れ動き急激に変化しつつある。その中で残酷な犯罪の多発、犯罪の低年齢化そして学校内のいじめ・不登校などが人間関係の希薄さから生じていることは明らかである。そして、今現在、自己中心的で、協調性・社会性が乏しく、行動が短絡的で、先を見通した行動ができない生徒たちの急増に危惧している。そこで、社会科教師の使命として、子ども達に社会の現実を直視させ、社会科の授業を通して人間としての生き方を教えていかなければならない。つまり、子ども達に学び方を教え、主体的に物事を捉え、自ら学び、考える力を育てていくことは、社会科の果たすべき責務と考える。

(2)主題設定の理由について

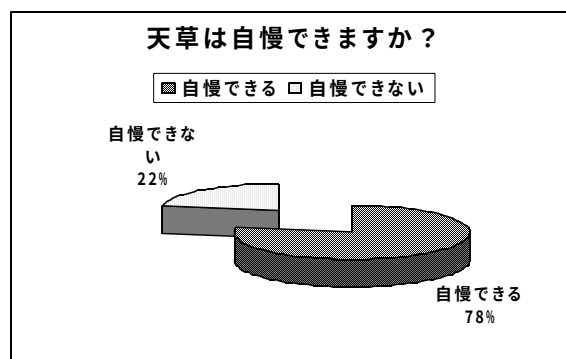
国際社会の中で主体的に生きる日本人としての資質や能力を育成するための土台として、まず我が国の歴史を理解させ、愛着を持たせることが大切である。しかし、生徒たちは「地域」に対する愛着が乏しく、先人が築いてきた歴史や文化の理解が浅い。だから改めて自分たちの住む地域を見直し、地域を知り、地域を生かし、身近な地域の歴史や文化に実際に触れる学習が必要であると考えた。そこで、生徒や地域の実態に応じた「地域の素材」を生かした学習を取り入れることで主体的な社会科学習が展開できると考える。その中で自分の地域を深く理解し、愛着を持ち、地域の人たちと共によりよく生きて行こうとする等「生きて働く力」の基礎が育まれると考える。

2 研究の内容

天草の南蛮文化

(1)生徒の実態

アンケート（右図参照）より、郷土天草を自慢できない生徒が22%いる。理由としては、「天草を知らない」「田舎」等が挙げられた。また、天草の歴史観として「隠れキリシタン」などについて暗いイメージで捉えている生徒が多い。



(2) 研究の仮説

「天草の南蛮文化」という地域素材を授業に生かし、次のような手だてをとれば、基礎・基本が身につく、生きて働く力が育成できるであろう。

- ① 生徒や地域の実態に応じた素材の教材化
- ② 題材における基礎・基本の明確化
- ③ 学習過程の工夫とまとめ方や発表方法の「図式化」

3 研究の実際

(1)生徒や地域の実態に応じた素材の教材化

学習指導要領 内容(1)イにあるように、地域を教材として扱うことは歴史を学ぶ上で大変有意義である。身近な地域にはあまり気づかれずに埋もれている素材はたくさんある。ただ地域の素材がすべて教材化できるわけではない。そこで地域素材を教材化するための条件として次のように考えた。

- ① 世界や日本の歴史を関連させて理解させることのできる具体的な地域素材
- ② 生徒の興味・関心が高まり、課題追究できる地域素材



キリシタン館のアルメイダ像

ここでは、地域に埋もれていた「天草の南蛮文化」の学習を通して、ポルトガル人が天草へ来た意図、キリスト教の布教の意図、豊臣秀吉との政治的関係など近世日本の様子と世界の動きそして天草が具体的に関連付けて理解できると考えられる。さらには、コレジヨというキリシタンの最高学府や印刷機及び天草本等の「天草の南蛮文化」に興味・関心が高まり、新たな発見をし、共感し、地域(郷土)への愛着と誇りが深まるであろうと考える。そして、自分自身を振り返り、これからどのようにして郷土と関わっていくのかを考えさせるためには、「天草の南蛮文化」という地域素材は、教材化に値するものと考えられる。

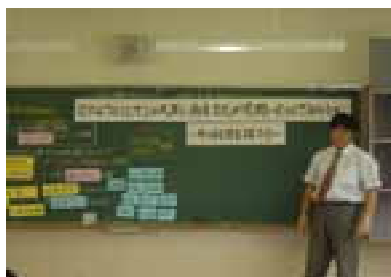
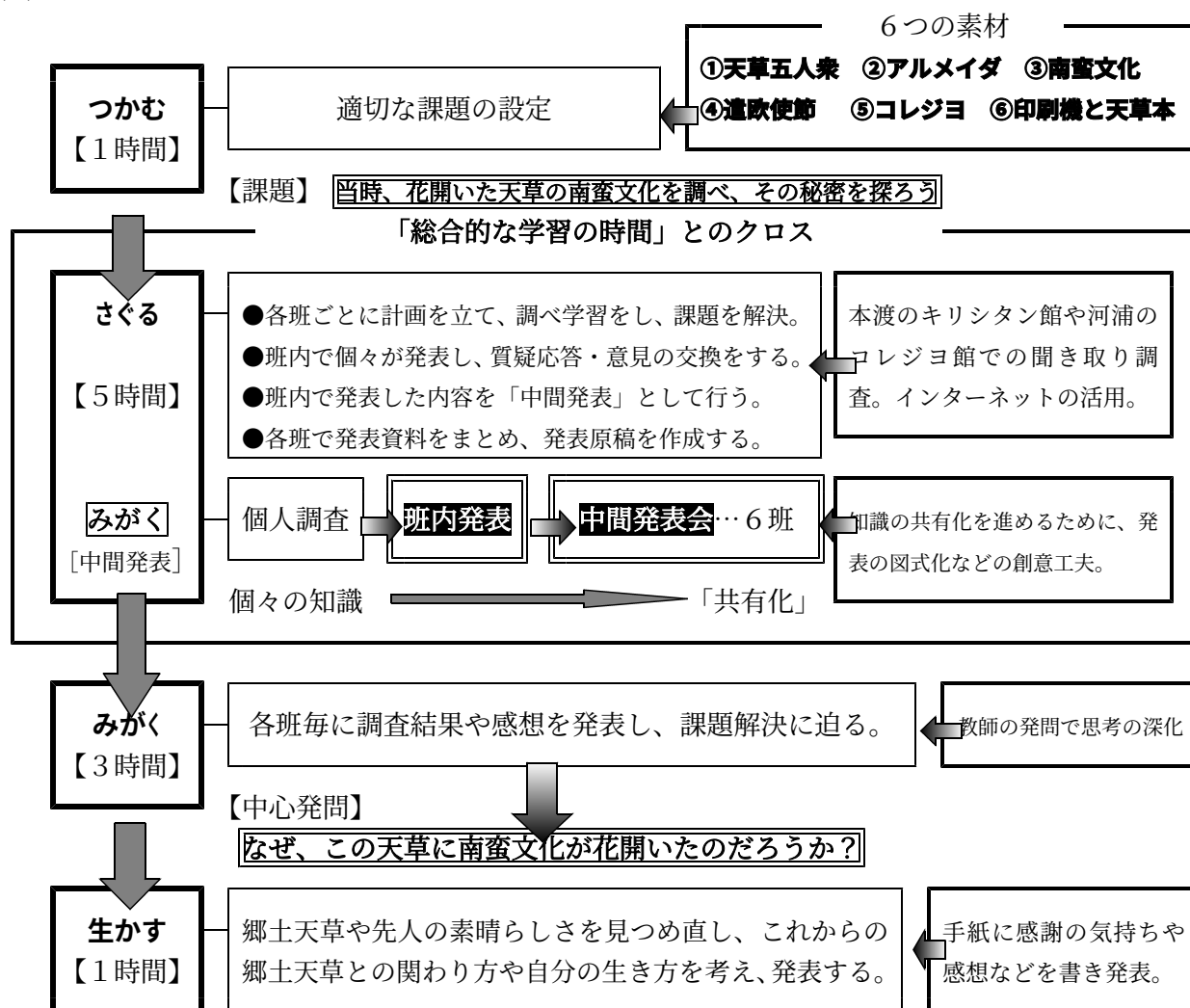
(2) 基礎・基本の明確化

題材の目標を立て、題材における基礎・基本の分析を行い、以下の通りに考えた。

「天草の南蛮文化」の学習を通して、自ら学び考える力などを高めるとともに、ヨーロッパ人の来航が郷土天草へ与えた影響等当時の世界と日本と天草の動きを関連させて理解することができる。

観 点	基 礎	基 本
社会的事象への 関心・意欲・態度	「天草の南蛮文化」について資料検索など意欲的に調べようとすることができる。	「天草の南蛮文化」に共感し、郷土を見直し、自ら郷土に関わろうとすることができる。
社会的な 思考・判断	当時の世界・日本・天草の動きを自分なりに捉えることができる。	当時の世界・日本・天草の動きを多面的・多角的に捉えることができる。
資料活用の 技能・表現	南蛮文化に関する様々な資料を自分なりにまとめることができる。	様々な資料をわかりやすくまとめ、表現するなど総合的に活用できる。
社会的事象について の知識・理解	「天草の南蛮文化」について理解できる。	「天草の南蛮文化」を日本と世界の動きと関連させて理解できる。
関連性のある知識	・アルメイダ・天草5人衆・印刷機・コレジヨ・天草本・天正遣欧使節	

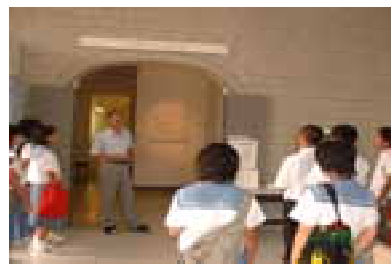
(3)学習過程の工夫とまとめ方や発表方法の図式化



①課題設定の様子



②提示資料に夢中の様子



③資料館での聞き取り調査の様子



④コレジョ跡を発見し調査している様子



⑤班で協力してまとめている様子



⑥各班での個人発表の様子

(4)実践例

① 本時の目標

- 天草における南蛮文化の素晴らしさがわかり、郷土に花開いた理由を考え、理解することができる。

② 本時の展開

過程	学習内容	時間	教師の支援	教材・資料
つかむ	①前時の復習をし、本時の学習課題を確認する。	3分	・今までの内容を振り返り、学習意欲を高める。	花の絵 発表資料
	当時、花開いた天草の南蛮文化を調べ、その秘密を探ろう			
さぐる	②各グループが自分たちの調査した内容を発表する。 ○「コレジヨと秀吉の政治」 ・コレジヨの役割について ・遣欧使節との関係 ・秀吉の政治との関係 ○「印刷機と天草本」 ・グーテンベルクと印刷機 ・天草本の種類と冊数 ・平家物語などの内容	15分	・発表資料の活用を事前に指示しておく。 ・発表のよさを認め、簡潔に整理し、次の発表につなげる。 ・発表の感想の書き方を指示する。	発表資料 VTR プリント シート
みかく	③今までの発表の中で印象に残ったことや驚いたこと等を発表する。		・一人一人がシートに印象や感想などを書いて、発表させ、黒板に貼る。 ・天草における南蛮文化の素晴らしさやすごさに共感させる。	花の絵 シート フラッシュカード
	なぜ、この天草に南蛮文化が花開いたのだろうか？			
	④「なぜこの天草に南蛮文化が花開いたのか」を考え、発表する。 ⑤ゲストティーチャーからの補足と発表の感想を聞く。	28分	・個人で考えた後、班の中で考えを高めるよう、机間指導する。 ・今までの学習内容と結びつけ、多角的・多面的に考えるように机間指導する。 ・歴史のロマンを大切にする。 ・学芸員の方には、発表に対する感想と課題解決のためのヒントを頂くように打ち合わせしておく。	
生かす	⑥本時の学習のまとめをする。 ○調べ学習で学んだことや南蛮文化の感想を書く。 ○次時の学習内容を聞く。	4分	・まとめる視点を与えて、まとめやすいようにする。 ・更なる疑問点なども大切にするように促す。	シート

4 研究の成果と課題について

(1) 検証について

仮説①について

生徒の感想から「自分が住んでいる天草に、こんな世界的歴史の跡が残っているのはとてもすごい」「今まであまり良いイメージでは少なかったけど、天草の素晴らしさがわかった」「印刷機など天草に残されていると知り、幾つか疑問に思ったので次から調べて解決したい」など、大変興味・関心を高めることができたことがわかる。また、「自己評価カード」の結果によると、7割の生徒が意欲的にかつ主体的に調べたことがわかった。

仮説②について

課題設定の様子や調査活動の様子、まとめや発表の内容、そして手紙の内容等から評価を行った。また「自己評価カード」と「ペーパーテスト」も導入して、評価した。上記の評価方法から、ほとんどの生徒が「基礎」は身に付け、「基本」は、6割の生徒が身に付けることができたと判断した。

仮説③について

題材の学習過程における「つかむ段階」で生徒の意欲・関心が高まり、その意欲を継続させて「さぐる段階」へ入ることができた。その中で、個人でまとめ、「班内発表」そして「中間発表」することで、班内外の知識の共有化を図ることができた。「みがく段階」では、発表資料を簡単に図式化等させて、VTR等を活用するなど創意工夫して発表することで、大変わかりやすいものとなった。最後に「生かす段階」では、手紙に感想や感謝の気持ちを書かせることで、自分の生き方や郷土への愛着について深く考えさせることができた。

(2) 成果について

- ① 生徒の手紙には、「僕はこんな天草を人生最後まで誇りに思って生きていきたいです。」「今の天草があるのは、南蛮文化や昔の人々、アルメイダの心が残っているからだと思います。」「私は生きていく中で天草の歴史や自然を大切に生きていきたいです。」「この素晴らしい天草で生まれて良かったです。」などがあり、郷土に対する愛着や誇りが深まったと思う。
さらには、郷土の人々だけでなく、ポルトガルの人々との交流も大切にしたいという感想も見られた。
- ② 社会科と総合的な学習の時間をクロスさせたことで、時間を確保でき、よりよい活動ができた。
- ③ 学習過程において「班内発表」や「中間発表」することで「あの班が私たちの班の課題解決のヒントを教えてくれたよ。」など調べ学習の課題でもあった知識の共有化も図ることができた。

(3) 課題について

- ① わかりやすい資料が少なく、難しい内容が多かったので、資料をさがすのに大変苦労した。
- ② 総合的な学習の時間とのクロスを図ったが、社会科との学習内容の違いを明確化させ、もう一度年間計画を練り直し、評価方法を考える必要がある。
- ③ 生徒の発表など伝達や表現の方法を検討する必要がある。
- ④ 調べ学習における更なる知識の共有化を図るための方法を検討する必要がある。



〈単元の構想図〉

